

## 世田谷村日記

石山修武

六月二六日

GA63号に藤森照信が茶室2題出して面白。写真も良かった。藤森は長生きすれば、ある独特の世界を作り上げるだろう。茶の宗家の如き世界で、それは建築の世界よりも、個々人に則して考えるならば、よほど広い。ただし、日本をベースにしなければ成立しない。生花の世界とおなじだ。十時地下へ、利根町のプログラムを作成する。

六月二七日

十時六本木ギャラリースAKA、院レクチャー。李祖原、J・グライターも参加。テラスで、建築・建築家の近未来について二人に話し合ってもらった。スタジオGの今年の目標を今夕話し合うことになった。

六月二九日 日曜日

堀田善衛の「方丈記私記」再読。定家の「明月記私記」と併読すると、よく理解できるような気がしてくる。何故仕切に、この時代すなわち平安から鎌倉への移行期に関する論述を読みたいと思うのかは明快には解らない。今の時勢への絶対的嫌悪とでも言うべきものなのか、コレワ。十六時読了。「世田谷村市場」について考えてみる。

六月三〇日

終日世田谷地下。世田谷村市場、つまり開放系デザイン市場、住宅、建築の戦略を練り直す。独人動かず、交わらず熟考する時だろう。今年の夏は厳しい夏になりそう。結局、三月四月の動き過ぎで、流石に疲れた体を休めるのに五月六月を費してしまっ